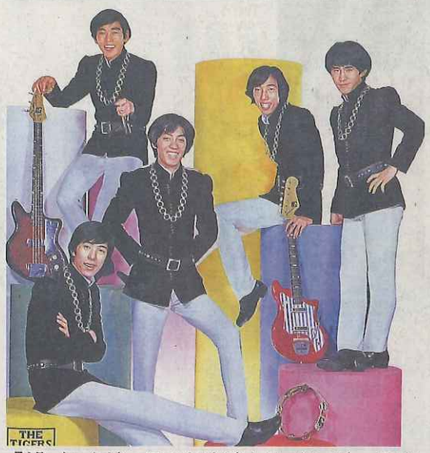
ザ・タイガース　オリジナルメンバー44年ぶり再結成

人生の肯定 和解で示す

栄光と反目…時を経て


「ザ・タイガース」オリジナルメンバーの森本太郎さん(左下)、沢田研二さん(中央)、瞳みのるさん(左上)、岸部一徳さん(右から2人目)、加橋かつみさん＝1967年当時

オリジナルメンバーで44年ぶりに再結成された「ザ・タイガース」の全国ツアーが昨年末、幕を閉じた。彼らの原点である関西での公演は12月17日に京セラドーム大阪であり、往年のファン約3万人が詰めかけた。京都で生まれたバンドは、当時若者だった団塊の世代に熱狂的な支持を集めたが、わずか5年の活動で解散。以来、別々の道を歩んできた5人の「和解」にファンは何を見ただろうか。(樺山聡)

ジュリー「力を与えてくれてありがとう」

「私の青春…」3万人魅了

「こうして光を当ててくれてありがとう。力を与えてくれてありがとう。愛をくれてありがとう」。ローリング・ストーンズの「サティスファクション」など2曲を歌い終えたボーカルの沢田研二さん(65)が観客に語りかけると会場は大きな拍手に包まれ、客席から「ジュリー、ありがとう」と叫び声が飛んだ。

観客のほとんどはタイガースのメンバーと同じ世代。近くの席では、女性が涙をハンカチでぬぐいながら舞台を見つめていた。

ドラムの瞳みのるさん(67)とギターの森本太郎さん(67)、ベースの岸部一徳さん(67)の3人は西陣に住む中学の同級生だった。ギターの加橋かつみさん(66)は、瞳さんが通っていた山城高夜間部に大阪の高校から編入し、出会う。高校の時、ベンチャーズの来日公演でエレキの音に魅了された4人はバンドを結成。別のバンドにいた鴨沂高の沢田さんが加入し、「ファニーズ」として出発した。

上京後、一躍1960年代のグループサウンズブームをけん引する存在になったが、メンバー間の衝突もあり、71年に解散した。

その後、沢田さんはソロで活躍。岸部さんも個性的な演技で映画やドラマに欠かせない存在になり、ヒット曲「花の首飾り」や「銀河のロマンス」など27曲を披露した。途中30分の休憩が入ったが、ジュリーは高く跳びはねて歌う場面もあり、ファンを沸かせた。

「タイガースは私の青春そのもの。キラキラ輝いていた頃につかの間、戻ることができた」。会場で声をからした主婦木本光枝さん(63)＝京都市下京区＝は涙を目にためて感想を語った。「老いた今をさらす再結成には勇気が必要だったと思う。ファンのために集まってくれた。心からありがとうって感謝の言葉を贈りたい」

ソロや再結成ツアーなし。5人のみの演奏で、ヒット曲「花の首飾り」や「銀河のロマンス」など27曲を披露した。途中30分の休憩が入ったが、ジュリーは高く跳びはねて歌う場面もあり、ファンを沸かせた。

「タイガースは私の青春そのもの。キラキラ輝いていた頃につかの間、戻ることができた」。会場で声をからした主婦木本光枝さん(63)＝京都市下京区＝は涙を目にためて感想を語った。「老いた今をさらす再結成には勇気が必要だったと思う。ファンのために集まってくれた。心からありがとうって感謝の言葉を贈りたい」

ポスターと衣装の展示場で「都をどり」をPRする祇園甲部の舞妓(京都市下京区・京都高島屋)

都をどり、ポスターで回顧

京都高島屋で始まる 京の花街、祇園甲部の舞踊公演「都をどり」で使ったポスターと衣装の展示が19日、京都市下京区の京都高島屋で始まった。長い歴史を感じさせる絵画や着物が、買い物客の目を引いている。

今年で142回を迎え

「外の世界を知った今だからこそ、やりたいことがたくさんある。今後は戯曲や歌に挑戦したい」と話す瞳さん(大阪市)

研究に使った大量の芸能雑誌を前に、ザ・タイガースへの思いを語る磯前准教授(京都市西京区・日文研)

タイガース本を出版　日文研の磯前順一准教授

著書「ザ・タイガース　世界はボクらを待っていた」(集英社新書)を最近出した国際日本文化研究センターの磯前順一准教授(52)は再結成ツアーの2公演を見た。「若さゆえに別れた5人の和解には、人生の肯定というメッセージが込められている」と話す。

磯前准教授は中学以来のファン。当時、すでにタイガースは解散していたが、沢田さんの歌を収めたテープに出合った。その中にバンド時代の曲も入っており、「ロマンチックな曲の世界に引かれていた」。当時、聴いていた洋楽とは違う「甘ったるい」世界。その魅力に引かれ、古い作品を集めた。

時代の寵児となりながら、音楽性の違いもあって解散した経緯にも引きつけられた。「いつか彼らの本を書きたい」。そんな思いも磯前少年に芽生えたが、いつしか学問への興味にかき消されていった。

専門は宗教学。東京大助手、日本女子大助教授を経る中で、「宗教概念あるいは宗教学」を探した。そこで少年の日のタイガースと心の中で「再会」する。

戦後の大衆史の中にタイガースを位置づける研究会を、音楽プロデューサーや映像収集家たちと立ち上げた。当時の芸能雑誌を集

文化観光

解散あったから今がある

瞳みのるさん

解散後に高校教師を務めた「ピー」ことドラムの瞳みのるさんは、再結成公演について「あの解散があったからこそ、メンバーが大きな力を合わせることができた」と語る。

人気絶頂時の解散については「僕たちは世間に踊らされていた部分がある。普通じゃない状況で、このままやってもいっても展望はないと、僕が引導を渡した」と明かした。

「文学を勉強したかった。芸能界とは真逆の世界に触れることで、再びこの世界に戻ることができた」と話す。

ミュージシャンとして復帰までの軌跡をたどった「ロング・グッバイのあとで」(集英社)に続き、昨年12月には「ザ・タイガース　花の首飾り物語」(小学館)を出版した。「タイガースとしてはひとまずお休み。生きていれば、メンバーが70歳か80歳を迎えた時にまた結成するかもしれない」

ドラム担当の「ピー」

写真が動きます